

## シンガポール 研修報告書

報告日：H28.10月25日

研修期間：H28.10月11日(火)～15日(土)

### ＜行程＞

- 10月11日(火) 羽田発10:55分→シンガポール着18:00  
10月12日(水) 午前：アセンション幼稚園  
午後：シンガポール動物園  
10月13日(木) 午前：キャタピラー・コープ幼児教育研究センター  
午後：チェリーハート・ディスカバリー・ランド幼稚園  
10月14日(金) 午前：オデッセイ・グローバル幼稚園  
午後：EIS インターナショナル幼稚園  
10月15日(土) シンガポール発11:00→19:20着

### ＜シンガポール事情＞

・51年前にマレーシアから独立。

・民族 中国系→75%

マレー系→14%

インド系→7%

・宗教 仏教→33%

キリスト教→18%

イスラム教→14%

ヒンズー教→5%

・国語 高校までは中国語と英語を学ぶ。大学で第二言語

・独立後、産業がないシンガポールは金融、貿易で発展。今ではGDP世界第二位。

300万人だった人口もこの10数年で500万人に膨れ上がる。まだまだ増えていくこと。

・国の面積は淡路島の大きさ位。

・高層マンションが林立。人口増加により、マンションは建設まだラッシュである。

・国民の80パーセントが公団、20%が民間のコンドミニアム。

・山がないため水不足で、今はマレーシアから水を購入しているが、あと数年で契約が切れるため深刻な水不足になるとのこと。今後は水のリサイクルを検討していく（下水の再利用等）

- ・男性は18歳～2年間服役する。(病気などの理由がない限り全員)
- ・街並みは大変美しい。独立した時に、海外から投資してもらえるように、魅力的な街づくりをしようという考え方のもと街路樹も何の種類がむいているか試して今の樹木にしたという。
- ・シンガポールには大学が5つある。進学率は以前に比べかなり増え、今は40%。
- ・保育園・幼稚園に勤務する職員は最低高校を卒業していなければなれる。中には大学、大学院卒もいる。

資格は必要ない。待遇は日本と同じようにあまり良くないとのこと。

- ・園見学の来園者は受付で体温を計測する。(体温が高い人は入れない形になる)
- ・幼稚園では基本的に英語と中国語を教える。クラスに両方の先生が入っていて、それぞれ習う時間帯がある。
- ・教育庁の管轄の幼稚園がこの2年で開園。月謝が民間より安いため、申し込み者が増えている。  
シンガポールに国籍があり、永住権のある地域住民が優先的に入園できる仕組みになっている。
- ・民間園(プライベート園)の月謝は10万～15万位とかなり高額である。
- ・働く家庭には国からの助成金が出る。(日本は園に対して運営費が支払われる)園に対しての助成金はなく、月謝で運営している。
- ・保育は、半日保育と一日保育の子がいる(保育料が違う)国からの助成金も変わってくる。
- ・子ども関係の人材が不足している
- ・職業訓練や養成をしているところには政府から助成金が出ている。沢山の人が新しい技術を身につけており、一人に対し500ドルの助成金が政府から出る。失業率を低くしようという考え方のもと技術の向上・質の向上、ステップアップのため500ドル支援、使い切ったらさらに支援するという。

高卒の資格がない人にはアシスタントとして実地訓練して、学校にも通い、ステップアップできるような仕組みがある。

## ① 10月12日(火)午前<アセンション幼稚園>

- ・51年前に設立。(シンガポール独立時)キリスト教が運営。
- ・キリスト教の教えがスローガンとして掲示されている。
- ・大切にしていること  
  
「ものの価値観」「整理整頓しよう」等小さいうちに覚えたことが将来大切になるという考え方。  
「分かち合う」「透明性」「コミュニケーション」を方針にしている。
- ・3歳児は14人を2人の大人で見る。基本的に7人ずつの少人数制。子どもの事がよく理解で

きるため。

- ・中国語と英語の先生がいて、それを学ぶ部屋がある。少人数制で行う。

中国語は家庭でほとんど使っている。英語は全員話せるようになるカリキュラムを組んでいる。

・スローガン「自分の物は片付ける」「最善を尽くす」「時間の管理」「先生の言うことを聞く」これらがクラスにスローガンとして掲示してあり、子どもが声を出して言うことで実践できるようになるとのこと。

「隣の人を愛せよ。自分を愛するように隣の人を愛せよ」→福音書より。

・外遊びが充実している（水、ガーデニング、砂、遊具、砂の中にアルファベットの書かれた石を入れておく→それを見つけて単語を作ってあそぶ）。当日は、ビニールに自由に絵が描けるよう設定されている。

・室内環境も大人が準備したものが机上に設定されてたり、部屋には中国語・英語の単語が掲示してあったり、ドリルも盛んに行われている。

・5歳児の作品には春夏秋冬の作品が大変多く、亜熱帯のシンガポールは一年中夏なのにどうして作品ができるのか質問すると、海外に旅行する家庭が多く、四季を経験している。また。子どもが将来、世界に出ていくことを常に頭に入れているので、積極的に取り組んでもいるそうだ。

・「グローバルに学ぶことによって、シンガポールの枠を超えて世界に自分が受けた愛を持って貢献してほしい」とのこと。

・職員は全てクリスチャン。「すべての子は神様からの贈り物、親から任せられた。子どもに尊敬の念をもって取り扱うように。子どもの潜在能力を引き出すこと。養育の環境を作り上げ、そこで人生を通して学んで欲しい」という方針。

・「オープンコンセプト」という保育を行っている。子どもたちの活動を時間で区切ってあそぶ。それぞれのグループで違うあそび、遊具などを交代していく。その変化に対応していくため職員の連携が大変大事になり、協力し合っている（1か所、30分ぐらいであそびが変わっていく）。

・子どもの人数に対して大人が多い。年長組でも1対15の比率。

・5歳児からパソコンに触れる機会がある（職員がついている）。

簡単な操作方法から始まり、小学校2年生になるとプログラミングも習うという。

・政府は少子化対策に「ベイビーボーナスアカウント」という一時金を出している。また親の貯金に政府が同額貯金する。（大学までの教育資金をためられるように）所得制限もない。

・資源は「人」。人に投資するしかない。そうでないと移民だらけになってしまう。よって子どもの教育に国が力を入れている。

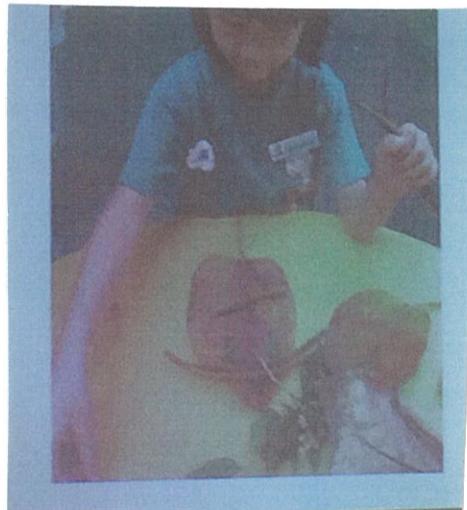
・園児は半日の保育で、午前の子が終わると午後の子どもたちが登園してくる。

朝食をゆっくりとて来られない子が多いため、園で軽食を出している（パウンドケーキやフ

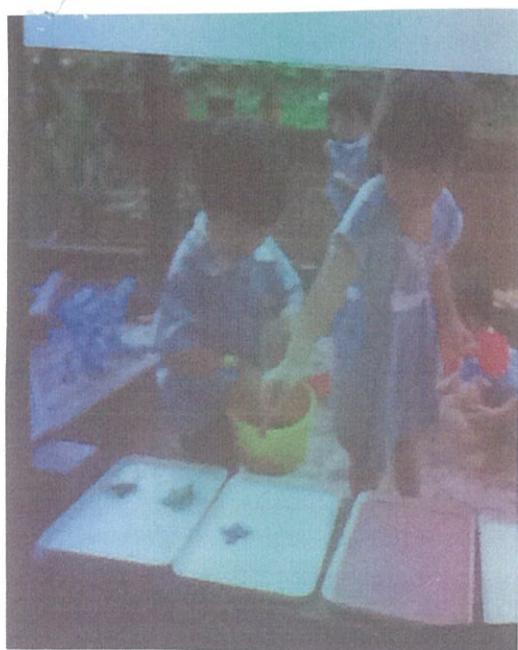
ルーツ等)。

衛生面にあまり気を使わないのか、子どもたちが食事前に手を洗っている様子がない事に驚かされた。

- ・65歳でも退職はできない。働くうちは働くように(定年制がない)それが経済を回すことになる。
- ・園の職員の給料は良いとは言えない。日本と同じ状況である。



部屋のあちこちに掲示されている「You Can Do It」



園舎 正面

園庭に準備された素材であそぶ

## ② 10月13日（水）午前＜キャタピラー・コープ幼児教育センター＞

・会社が運営する園。幼児の開発・研究園として位置づけられている。ここでの保育を研究開発関連業者や機構が投資している。財団や基金で運営→幼児の環境整備に投資してもらっている。シンガポールは土地が狭いため、ほとんどがビルの中に園がある。大人の環境をリメイクして子どもにもよい環境にするため整備している。

在園児の建築士夫婦が、リサーチしたりアイデアを出したりしてできた園。建築賞を受賞している。

・「オープンストラクチャー」の考え方→空間を壁で仕切っていない。子どもが想像力を働かせることが大事だと、考えを大人が決めつけないようにする。見た目がきれいなだけの施設ではなく、どうしてそのような作りなのか裏に隠された意味が大事と考えている。

・テラスに山や砂場、植物があり、園庭のような空間がある。三輪車もあり、環境としてはよくできていた。

オープンな空間であるが、他のクラスの声などあまり気にならず、各クラスが活動に集中していた。

ビルの中で、壁がなく、間仕切りや棚が低い。子どもたちの制作物を上手に掲示していた。

### ○カリキュラム概要

・0歳～3歳→先生と子の関係性を大事にしている。安心・安全な環境のもと、大人は子どものいしづえにならなければならない。遊び、探索、遊具が大事である。

・4歳～6歳→教育を通して子どもがどうなって欲しいか。

#### ストラクチャー（構造）を学ぶ

→小学校に入ってプログラムが必要になった時、落差がないように、子どもに強制はしないが園として責任はある。入学時に必要なことのみ教える。

ことばや数など学んだことを遊びに活かしたり、実際に応用する。経験と人との交わりの中で繰り返していくもの。これが大事だと考えている。

地域社会がどうなっているか知ることも大事だと考えている。園を取り巻く環境を認識する必要があるため、地域の小学校とも交流している。

イメージメント「なぜこうなるのか」「調べよう」「あそぼう」等。

### ○運営する園の種類

- ・マイファーストスクール（公団集中エリア）（下流～中流家庭対象）→100園以上運営
- ・リトルハイスクール（商業ビル内）→10～15園
- ・アフタースクール（学童）ケアの必要な子いる

- ・先生たちの訓練校

○質疑応答

- ・研究は実際どのように行われているのか？

→まだ2年目。全体のカリキュラムを作り実践してその経過観察。専門家が分析する。

政府の助成金を申請している。成果を上げなければ助成金はもらえない。テーマ「博物館」「アートセンター」を体験して子どもたちが現代アートをどう観賞するか等、まだ始まって2年なので経過観察中というところではある。

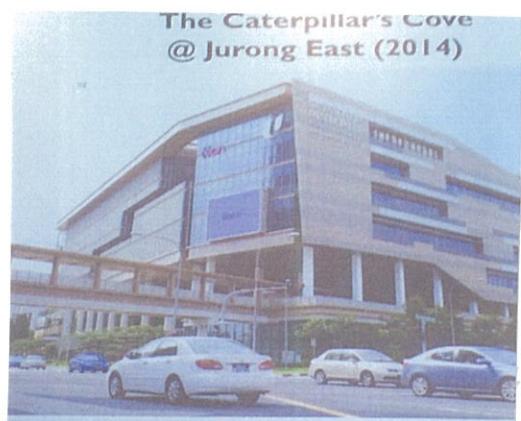
(研究費を申請するため、どのように考えていくかを検討中のように見受けられた)

- ・危機管理はどのようにになっているのか？

→避難訓練は半年に一度とのこと。地震がない国だからか、半年に一度は少ないと感じられた。

- ・火災の訓練も行われているのだろうか？

→入口はパスワード式。園内のカメラは保護者との信頼関係において取りつけていない。室内はオープンスペースで見渡せるため、職員皆で見ているとのこと。



### ③ 13日（木）午後く cherie-hart・デスカバリーランド>

- ・会社が運営する園。フランチャイズ。3か月～6歳までの園児が通う。
- ・方針
  - 将来、リーダーになる存在の子を育てる。  
→道徳的、思いやる心、地域社会に貢献する。
- ・環境的に優れている園である。健康的で衛生面にも配慮している。  
12時間の保育時間のため「第二の家庭」になるような環境設定。
- ・フランチャイズで沢山の園を運営している。保護者から「違いがあるか」と聞かれ「室の均一化を心掛けている」と答えていること。
- ・プログラムを良い内容にし、質の高いカリキュラム、知識を教え込むだけではない保育を行っている。
- ・保護者とは「パートナー」の関係。保護者の中に10人ぐらい中心となるグループがいるため、そこから全体に発信してもらい、他の保護者に働きかけるような形をとっている。また、父親たちに読み聞かせをしてもらったり、年に1回、ファミリーデイがあったり、スポーツ、イベントなどを楽しんで行っている。
- ・9月にチャリティカーニバルを行い、売上金は低所得者の人に寄付をしている。

#### ○園の方針

- ・正直に正しく評価する。  
→まわりの人がよりよくなるように。いかに祝福されて恵まれているか、自分が受けた愛情をまわりの人に分け与えること。
- ・尊敬の念。  
→敬意をもって大切に扱う。
- ・すべての子はユニーク。皆違って潜在能力を持っている。
- ・チームワークを大事にする。  
→スタッフはグループ。チームとしての意識を持つ。それが子どもに受け継がれていく。  
卒園してもその価値観を持ち続けて欲しい。
- ・学ぶことへの情熱  
→子どもだけでなく職員も持ち続けて欲しい。常に学ぶ。型どおりの考え方から創造的な考え方へ。  
(例)園に小児科医10人来て、セットアップしてもらい病院の様子を実際にやって見せてもらって学ぶ。
- ・園で学んだことを家に持ち帰って実践してほしい→ゴミ拾い(休日に両親と公園のゴミ拾いを

した)

- ・卒園は12月。小学校入学が1月。
- ・玄関には保護者が読んで役に立つものを掲示。家庭で制作したものを持たせるコーナーがあった。(リサイクル活用したもの)
- ・毎月のたよりは掲示もするが、メールにて保護者に送信しているとのこと。
- ・子どもの制作物が沢山掲示されている。落ち葉や布など様々な素材を使った物を利用している。
- ・世界に目を向けるため、国旗や世界地図、世界の気温なども部屋に掲示されている。
- ・中国語、英語を学ぶ時間があり、少人数制で行われていた。
- ・開園時間は7時～19時まで。延長保育の子はほとんどいないとのこと。
- ・この園の先生方は「残業」が何か知らないとのことだった。
- ・大人の人数が多く、ゆとりを持って子どもたちと接していた。



部屋の玩具のひとつ



ランチルーム



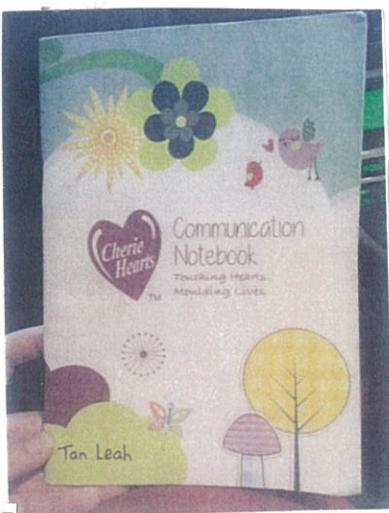
子どもの制作物には自然の物が利用されている



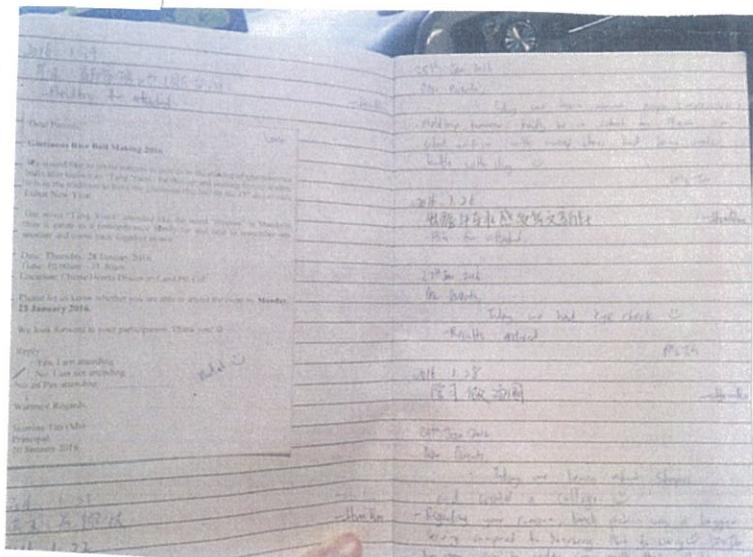
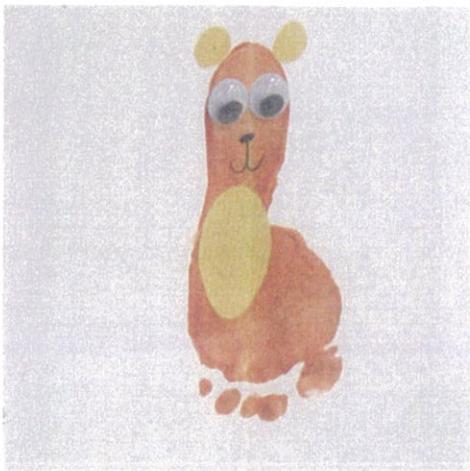
ホールの柱を活かして



子どもの制作物には自然の物が利用されている



連絡帳



## ④ 14日（金）午前＜オデッセイ・グローバル幼稚園＞

- ・民間園
- ・この園は裕福な家庭の子が通園。この園に入るために、また、いい学校に入るために引っ越ししてくるとのこと。
- ・シンガポールに4園ある。グローバルに展開している。マレーシアに2園開園する予定。

### ○方針

- ・世界に通用する子を育てる
- ・卒園児はどんな文化、多様な文化に対応できるよう教育すること
- ・イタリアのウエッジエミリアのプログラムを採用。シンガポール用に調整して使っている。
- ・すべてを子ども中心に。
- ・カリキュラムは継続的に。
- ・外部とのコラボ（警察と安全教育など）。
- ・コンダクト（新入の先生に研修）よみきかせコース等。
- ・多様性→多様な子、障がいをもった子等それぞれ受け入れる。
- ・手を使って体験する。
- ・興味をそそる→「やってみようか」と思えるように工夫する。

### ○カリキュラム

- ・英語、中国語、数学、料理、音楽、美術、運動、戸外あそび、年間4つのプロジェクト（料理の例）等。
- ・イタリア：ピアチエの考え方→市場（自由にあそべる空間）ブロック、ままごと、パズルなど自由にあそべる空間。
- ・食堂、子どもの料理する場（シンクラボ）。
- ・子ども図書館、エコの制作物。

### ○質疑応答

- ・障がい児についての質問：どのような形で保育するのか？  
→深刻な場合は専門のセラピストを親に雇ってもらって一緒に来てもらう（親がここを望んでいるので）。  
健常の子も個性もそれぞれなので先生が見ていく。
- ・先生の一日の仕事の量は？  
→カリキュラムはイタリアの物があるので、それを使う。クラスリーダーがクラスをまとめる。

年間カリキュラムを決めて期におろす。連絡帳は無い。口頭で伝える。2週間に1回Eメールを送る。(写真も)

- ・男性保育士について

男性はトイレに入れない→男性を守るために。産婦人科も女医。

おむつ替えも女性。男性には乳児を担当させない。

### ○6歳児

- ・男性保育士が勤務していた。少人数に分かれ好きな遊びをする。発達がゆっくりの子に先生が付く。

園児は床に座らせない。先生と子どもの目線近くにするため、椅子、ベンチ等に子ども座る(大人に大切に扱われていると感じる)。

- ・子どもの自己紹介の掲示→「自分はこのクラスにいる」属しているという意識育つ。

- ・卒園に向けての発表会→子どもどうしで教え合う(グーグルで調べる)。

### ○3歳児

- ・「3匹のくま」の絵本から学ぶもの→お粥の作り方、サイズ(大、中、小)これらをきっかけに認識できるような遊びに。

### ○シンクラボ

子どもたちの料理場所、エプロン・帽子をつける。大人の真似をする。18か月から参加。料理に、はやすぎるということはない。

5歳児ではインディアンパンケーキを作り、バザーで販売。提案→作る→宣伝→売るという流れ:企業家の精神を知る。4歳児も制作したストールを販売。レストランでフロア、レジ係等の役割分担をする。

- ・18か月~3歳

→発表会ではパフォーマンスはさせない。父母の前に立つだけでよい。

- ・園庭

ドリアン、マンゴー、パパイヤが植えてある、家に持ち帰ってもよいことになっている。草取りは子どもが行う。

- ・アテリア(美術室)

美術室があり、美術活動はここで行う。専任講師がいて、カリキュラムを担任と専任の先生が話

し合い、決めていく。子どもといえども「プロ」として捉えているので作品の展示会は大きな会場で作家の作品のように展示すること（この作品はチャリティーで売り、その売上金は福祉機関に寄付している）。

- ・この園は警察学校のリノベーションした施設であるとのこと。傾斜地に存在し、地形を生かした大変素晴らしい施設、環境に設計されている。この園は空間、自然を最大限に利用した園である。
- ・エコ活動が盛んで、地域からも「エコを促進する園」として認識されているとのこと。



## ⑤ 14日（金）午後<EIS インターナショナル幼稚園> イーズ＝安心

- ・民間が運営（法人）
- ・日本人の子どものための園。両親のどちらかが日本人、またはどちらも日本人が対象。（稀に両親とも外国人の場合もある）
- ・母国語を大事にしながら英語も知る。子ども同士は日本語。保育士は英語が多く、英語2：日本語1の割合で行う。子どもの中ではどちらもなじんできているところ。
- ・英語の先生は今困っている子に愛情をたっぷりかける。  
日本人の先生は1：何十名という形が多いので両方合わせて落ち着いている。
- ・シンガポールは先取りの保育が主だが、ここは違う。今のこの時期に何をしてあげられるか。今、この時を大事にしている。  
「やらされている」ではなく「やってみたい」ことをやれるように。  
子どもの「やってみたい」エネルギーを大切にしたい。
- ・「楽しかった」というベースがあると子どもの取り組み方が違う。英語は「楽しい」と思えるよう大事にしている。
- ・日本人として日本に戻った時に困らないよう、立ち振る舞いも知らせている（お箸の持ち方、立って食べる）。
- ・シンガポールでは、この園に運営費が出ない。（インターナショナルのカテゴリーに入るため）収入は保育料のみ。
- ・法人に貸す施設は、契約は10年までとなっている、今年9年目のため来年は引っ越しをする。（そのため車で30分くらいのところにある島に移る。バスでの送迎となる）
- ・園児の入退園激しい。年長児でシンガポールの小学校に通う子は11月くらいに退園し、1月に入学する。
- ・縦割り保育クラスが1クラスだけあり、希望者の保護者が選んで入る。
- ・クラス代表の保護者2名と園長、副園長とで懇談会を行い、親の要望を聞いてもらう時間を作っている。園の方針もわかってもらう。園の方針を理解していない保護者が多く、この懇談会でわかってもらうことが多い。
- ・職員の求人は日本で行う。大学に依頼し、海外で働きたい人を募集している。



ウエスト校



イースト校



## <シンガポール動物園>

国が運営する唯一の動物園。

自然な環境の中で動物が飼われている。山、池、林等の中に作られている。檻の中に閉じ込められている感じはしない。そのため、動物たちも自然な動きをしている感じを受けた。ストレスがあまりたまらないのではないだろうか。

観光の人気スポットになっていた。



## <研修を通しての感想>

今回のシンガポール研修では、日本以外の様々な保育施設を見学させていただくことができた。宗教（キリスト教）、会社運営、研究機関からの女性を受けながらの幼稚園、高収入の家庭の幼稚園、インターナショナル幼稚園と、それぞれ違った運営のため、保育方針や中身もかなり違うものであった。

しかし、どの園についても共通することは、中国語と英語の2か国語を幼稚園で学ぶこと。それが、最低限必要なことになっている。

シンガポールは資源がなく、金融、IT産業が盛んで栄えた国。そのため、人に投資する考え方になっている。世界に通用する人材を育てることがシンガポールの教育の基本となっていることが分かった。かなり競争社会になっているとのことだ。

保育環境をとっても、掲示物には世界の地図、通貨の表、国旗、挨拶の用語等が年齢に合わせて貼ってある。常に世界を意識するような環境になっている園がほとんどだ。

また、保育士、幼稚園教諭には資格がないことに驚いた。日本では専門職として国家資格が必須であり、昨今は「保育の質の向上」が問われているため、研修への参加や自分での勉強も必要だ。シンガポールの園がどのようにして保育・教育を組み立てていくのか？また、保育に欠かせない子どもの発達についていつ勉強するのか？今回は具体的なところを理解することはできなかった。

高校卒業していれば入職できるとのことだが、大学・大学院卒もいるとのこと。キャリア組は園ではリーダー、主任、園長と幹部に昇進していくと聞くと、能力主義という感じがした。今回、園長として説明して下さった先生方にもかなり若い方が多かった。

会社組織運営の考え方である。

男性保育士についても国の考え方が伺えた。日本とは少し違うが、参考になった。今回5園中2園に一人ずついた。男性保育士に対する配慮も大事ではあるが、乳児を持つことができないとなると、本人の意向に反することがないのか気になるところだ。我が園にも男性保育士が勤務しているため、保護者から見て働きにくくないか、誤解を招くことがないか、差別になっていないか？等考えさせられることが多かった。

また、保育にあたる職員の人数がかなりゆったりしている。これはESIを除く4園とも同じだった。（ESIは日本人学校のくくりになるため、日本の国基準と同じような配置基準であった）

「子ども一人ひとりしっかり見ていく」という考え方のもとに少ない人数に設定しているとのこと。この点についてはうらやましいと思った。

日本の国基準では、子ども一人ひとり十分に受け止めてあげられるか？その点では私は難しいと思う。何を基準にその数が出てくるのか？疑問に思っている。

また、私が感心したことは、どの園でも大人の声がほとんど聞こえないことだ。子どもたちの声のみ聞こえてきた。それは大人の数が十分にいることにも比例しているのだろうか。それだけではないとも感じられた。

「大人の小さい声」これは保育の基本である。我が園でもまだ課題があるため、今後も取り組んでいかなければと強く考えさせられた。

園の制作物については各園、リサイクルしたものを使っていた。子どもたちにもそのような精神を学ばせているところがはっきりと伺えた。

また、バザーを行い、低所得者や福祉の機構に寄付する活動も盛んである。乳幼児期からこうした活動を通してそのような意識が生まれることがわかる。

就業に関する国の考え方もしっかりしている。失業者は出さない。国としてきちんと就業させる、しっかり支援するという考え方方が明確である。日本も、もっと見習ってほしいと感じた。

今回、法人の嘱託職員・柳田先生や現地での案内役のイーブンさん、ジョンさんが、バスの移動中等にシンガポールの状況をわかりやすく説明・解説して下さった。

園の見学だけでは理解できないことが、柳田先生たちによってより具体的に理解することができた。

今回、行政の方とお会いできる可能性があるということで質問事項を色々考えてはいたが、実現はできなかった。それでも見学の際に可能な限り質問もさせていただくことができたのでより理解が深まったと思っている。

この研修ではシンガポール5園を見学した。また、動物園にも半日、最後の日にはイースター島にも行き、観光もさせていただいた。

それにより、シンガポールの国の歴史、今の国の諸事情などが子育てや教育にすべて反映していることが実感できた。そのことにより、わずかだが日本を客観的に見ることができたように思う。園で取り入れられることは直接的にはあまりないのかもしれないが、確実に自分の視野は広がったと感じる。

この研修に参加させていただき、感謝しております。本当にありがとうございました。

以上